

事業名

青梅市高次脳機能障害者グループ認知訓練 午後プログラム



1 実施団体

なんてんの会

2 担当課

障がい者福祉課

3 実施時期

平成 27 年 6 月～平成 28 年 3 月

4 参加者

利用者 5 名 ヘルパー 5 名

5 実施場所

青梅市障がい者サポートセンター

6 事業の目的

高次脳機能障害者に対し、スポーツや制作活動を通し肉体的な機能改善とともにグループの特性を生かした社会訓練を行ない、地域生活へのステップアップを援助する。

高次脳機能障害者の家族のレスパイト。

7 役割分担

・団体の役割

- ① 午後プログラムの企画・運営。事業の記録。
- ② 西多摩高次脳機能障害生活支援員を中心とした家族をヘルパーとして派遣

・担当課の役割

- ① 青梅市障がい者サポートセンターの施設・備品利用。
- ② 講師として青梅市障がい者サポートセンターの職員を2回派遣。

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

医療の場面ではリハビリは原則6か月で終了する。また、認知訓練はセラピストと患者1対1で行なうことしか認められない。このように制度上困難ではあるが、高次脳機能障害の認知回復に大きな効果のあるとして要望の強いグループ認知訓練・社会訓練が実現した。

その結果、社会復帰や職場定着が難しいと言われる高次脳機能障害であるが、今年度利用者5名の内2人が一般就労、3人がB型就労支援に通所できている。

9 目標達成

事業の目標：

- ① 訓練対象者6人～7人。
- ② 年間6回、専門講師による指導。
- ③ ヘルパー確保の安定化。

目標の達成具合：

- ① 訓練対象者5人（予定者2人が諸事情により辞退）
- ② 予定通り実施。
- ③ ヘルパー2人増員。

10 事業の実施内容

別紙参照

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- ① ヘルパーを家族が行なうばかりでなく、高次脳機能障害に関心のある市民も関わることにより障害に対する理解が深まり、適切なケアを行なえる人材が増えるのではないか。
- ② ヘルパーの勉強会を行いたい。
- ③ 利用者に合わせてプログラムの内容を変えていくことも必要。

13 その他

利用者・家族から事業の継続を強く求められている。また、何人か新規利用者の候補も上がっている。

そうした中、来年度も事業内容の充実・拡大を目指していきたいと思う。